

[平成31年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

ヤマザキ動物看護専門職短期大学 動物トータルケア学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人ヤマザキ学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 短期大学事務局

職名・氏名 ジムキョクチョウ ヤマヅチ ヒロフミ
事務局長 山口 博文

電話番号 03-3468-1101

（夜間） 03-3468-1101

F A X 03-3468-1102

e-mail soumu-t@yamazaki.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について

（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

＜動物トータルケア学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	26

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人ヤマザキ学園

(2) 大 学 名

ヤマザキ動物看護専門職短期大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒150-0046

東京都渋谷区松濤2-3-10

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ヤマザキ カオル) 山 崎 薫 (平成6年6月)		
学 長	(ヤマキタ ノブヒサ) 山 北 宣久 (平成31年4月)		
学 部 長	—		
学科長等	(ハナダ ミチコ) 花 田 道子 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
動物トータルケア学科 動物看護短期大学士(専門職)	農学関係	3 年	80 人	- 年次 人	240 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 80 (-) [-]	人 (-) [-]	0.76倍	- 倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	66 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	64 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	64 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	61 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A									0.76				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	61 [-] -	- [-] -	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4 年次							[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	61 [-] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	61 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{61} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<動物トータルケア学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
① 基礎 科目	生命倫理	1前	2			1					
	心理学	1前		2							1
	社会学	1後		2							1
	キャリアマネジメント	1後		2				1			
	コミュニケーション論	1前		2							1
	英語Ⅰ	1通	2					1			
	英語Ⅱ	2前		1				1			
	コンピュータリテラシー(情報処理)Ⅰ	1前	1								1
	コンピュータリテラシー(情報処理)Ⅱ	2前		1							1
	生活とアート	2後		2							1
	小計(10科目)	-	5	12	0	1	0	2	0	0	5
② 職業 専門 科目	動物看護学概論	1前	2			1					
	動物形態機能学	1前	2			1					
	動物形態機能組織学	1後	2			1					
	動物形態機能学・組織学実習	1後	1					1	1	4	
	動物臨床看護学(基礎・内科)	1前	2			1					
	動物臨床看護学(基礎・内科)実習	1通	2							4	1
	動物臨床看護学(外科)	2前	2					1			
	動物臨床看護学(外科)実習	2通	2					2		4	
	動物口腔ケア論	3前		1							1
	動物口腔ケア実習	3後		1						4	1
	訪問動物看護学	2前	2								1
	動物看護ソーシャルワーク	2後	2				1				
	動物生理・繁殖学	1前	2			1					1
	動物病理学	1後	1			1					
	動物薬理学	2前	2			1					
	公衆衛生学	1前	2			1					
	動物感染症学	1後	2			1					
	環境生物学	2後		1		1					
	動物臨床検査学	1後	2					1			
	動物臨床検査学実習	1後	1					1	1	4	
	動物臨床栄養学	2後	2			1					
	動物行動学	1後	2								1
	動物リハビリテーション論	3前		2		1		1			
	動物人間関係学	3前	2				1				
	動物愛護・福祉と関連法規	3後	1								1
	伴侶動物学	1前	2						1		2
	動物飼育管理論	2前	2								2
	野生動物学	2後	1								1
	産業・実験動物学	3前	2								1
	動物トータルライフ環境論	2前	2								3
	動物トータルライフ演習	3前		1				1			1
	コンパニオンアニマルケア論	1前	2						1		1
	コンパニオンアニマルケア実習(基礎)	1通	3						1	4	
	コンパニオンアニマルケア実習(応用)	2通	3						1	4	1
	コンパニオンドッグトレーニング論	2前	2					1			
	コンパニオンドッグトレーニング実習	2通	3					1		4	
	臨地実習1	1後・2前	1								
	臨地実習2	1後・2前	1			1		3			
	臨地実習3	2後	4			3		1	2		
	臨地実習4	3前	4			1	1	3	1		
	臨地実習5	3後		5		2	1	1	1		
	臨地実習6	3後		5		1	1	2	1		
	動物実習短期留学	2・3通		2				2			
	研修・ボランティア活動	1・2・3通		1				1	1		
	小計(44科目)	-	70	19	0	4	1	6	2	4	15

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
① 基礎 科目	生命倫理	1前	2			1					
	心理学	1前		2							1
	社会学	1後		2							1
	キャリアマネジメント	1後		2					1		
	コミュニケーション論	1前		2							1
	英語Ⅰ	1通	2					1			
	英語Ⅱ	2前		1				1			
	コンピュータリテラシー(情報処理)Ⅰ	1前	1								1
	コンピュータリテラシー(情報処理)Ⅱ	2前		1							1
	生活とアート	2後		2							1
	小計(10科目)	-	5	12	0	1	0	2	0	0	5
② 職業 専門 科目	動物看護学概論	1前	2			1					
	動物形態機能学	1前	2			1					
	動物形態機能組織学	1後	2			1					
	動物形態機能学・組織学実習	1後	1						1	1	4
	動物臨床看護学(基礎・内科)	1前	2			1					
	動物臨床看護学(基礎・内科)実習	1通	2								4
	動物臨床看護学(外科)	2前	2						1		
	動物臨床看護学(外科)実習	2通	2						2		4
	動物口腔ケア論	3前		1							1
	動物口腔ケア実習	3後		1							4
	訪問動物看護学	2前	2								1
	動物看護ソーシャルワーク	2後	2						1		
	動物生理・繁殖学	1前	2			1					1
	動物病理学	1後	1			1					
	動物薬理学	2前	2			1					
	公衆衛生学	1前	2			1					
	動物感染症学	1後	2			1					
	環境生物学	2後		1		1					
	動物臨床検査学	1後	2						1		
	動物臨床検査学実習	1後	1						1	1	4
	動物臨床栄養学	2後	2			1					
	動物行動学	1後	2								1
	動物リハビリテーション論	3前		2		1		1			
	動物人間関係学	3前	2						1		
	動物愛護・福祉と関連法規	3後	1								1
	伴侶動物学	1前	2							1	2
	動物飼育管理論	2前	2								2
	野生動物学	2後	1								1
	産業・実験動物学	3前	2								1
	動物トータルライフ環境論	2前	2								3
	動物トータルライフ演習	3前		1					1		1
	コンパニオンアニマルケア論	1前	2							1	1
	コンパニオンアニマルケア実習(基礎)	1通	3							1	4
	コンパニオンアニマルケア実習(応用)	2通	3							1	4
	コンパニオンドッグトレーニング論	2前	2						1		
	コンパニオンドッグトレーニング実習	2通	3						1		4
	臨地実習1	1後・2前	1							3	1
	臨地実習2	1後・2前	1			1			3		
	臨地実習3	2後	4			3			1	2	
	臨地実習4	3前	4			1	1		3	1	
	臨地実習5	3後		5		2	1	1	1	1	
	臨地実習6	3後		5		1	1	2	1		
	動物実習短期留学	2・3通		2					2		
	研修・ボランティア活動	1・2・3通		1					1	1	
	小計(44科目)	-	70	19	0	4	1	6	2	4	15

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
③ 展 開 科 目	ジェロントロジー	3前		2								1
	社会福祉学	2前		2								1
	少子高齢社会と人口問題	3前		1								1
	高齢者心理	2後		2								1
	死生学	3後		2								1
	産業論	3前		2								1
	起業論	3後		2								1
	消費者行動分析学	3後		2								1
	IT社会論	3後		1				1				1
	情報危機管理論	3後		1					1			1
	災害・危機管理論	3前		2		1						1
	医療安全	3後		2								1
小計(12科目)	-	0	21	0	1	0	1	0	0	11		
④ 総 合 科 目	動物トータルケア総合演習1	2通	1				1	1				
	動物トータルケア総合演習2	3通	1			1		1				
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	2	0	0	0	
合計(68科目)		-	77	52	0	5	1	6	2	4	28	
卒業要件及び履修方法												
・卒業要件 1 基礎科目 必修科目5単位及び選択科目10単位修得すること。 2 職業専門科目 必修科目70単位及び選択科目の「臨地実習5」または「臨地実習6」の5単位を修得すること。 3 展開科目 選択科目15単位修得すること。 4 総合科目 必修科目2単位修得すること。 上記の要件を満たし本学に3年間以上在学し、必修科目77単位以上、選択科目30単位以上、計107単位以上を修得し、一般財団法人動物看護師統一認定機構が認定する認定動物看護師の受験資格を得ること。												
・履修制限 1学期ごとの履修単位数の上限は23単位とする。												

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
③ 展 開 科 目	ジェロントロジー	3前		2								1
	社会福祉学	2前		2								1
	少子高齢社会と人口問題	3前		1								1
	高齢者心理	2後		2								1
	死生学	3後		2								1
	産業論	3前		2								1
	起業論	3後		2								1
	消費者行動分析学	3後		2								1
	IT社会論	3後		1								1
	情報危機管理論	3後		1				1				1
	災害・危機管理論	3前		2		1						1
	医療安全	3後		2								1
	小計(12科目)	-	0	21	0	1	0	1	0	0	11	
④ 総 合 科 目	動物トータルケア総合演習1	2通	1				1	1				
	動物トータルケア総合演習2	3通	1			1		1				
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	2	0	0	0	
合計(68科目)			-	77	52	0	5	1	6	2	4	28
卒業要件及び履修方法												
・卒業要件 1 基礎科目 必修科目5単位及び選択科目10単位修得すること。 2 職業専門科目 必修科目70単位及び選択科目の「臨地実習5」または「臨地実習6」の5単位を修得すること。 3 展開科目 選択科目15単位修得すること。 4 総合科目 必修科目2単位修得すること。 上記の要件を満たし本学に3年間以上在学し、必修科目77単位以上、選択科目30単位以上、計107単位以上を修得し、一般財団法人動物看護師統一認定機構が認定する認定動物看護師の受験資格を得ること。												
・履修制限 1学期ごとの履修単位数の上限は23単位とする。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
40 科目	28 科目	0 科目	68 科目	40 科目 [0]	28 科目 [0]	0 科目 [0]	68 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{68} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	ヤマザキ動物専門学校 (収容定員：80人、面積基準：校舎等を保有 するに必要な面積)と 共用				
	校 舎 敷 地	1,597.273㎡	0㎡	400.462㎡	1,997.735㎡					
	運動場用地	152.19㎡	0㎡	0㎡	152.19㎡					
	小 計	1,749.463㎡	0㎡	400.462㎡	2,149.925㎡					
	そ の 他	0㎡	251.295㎡	0㎡	251.295㎡					
	合 計	1,749.463㎡	251.295㎡	400.462㎡	2,401.22㎡					
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	ヤマザキ動物専門学校 (収容定員：80人、面積基準：300㎡)と共 用				
		3,241.39㎡ (2,769.09㎡)	929.12㎡ (911.31㎡)	482.75㎡ (786.62㎡)	4,653.26㎡ (4,467.02㎡)					
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	専門職短期大学全体			
		6室	0室	4室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)				
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		専門職短期大学全体			
		動物トータルケア学科			5 室					
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専門職短期大学全体 図書：既設大学・専門 学校からの転用図書の 整理及び寄贈図書増加 のため(元) 学術雑誌：専門学校か らの転用及び新規定期 購読の追加のため(元) 電子ジャーナル：新規 契約の追加のため(元) 視聴覚資料：既設大学 からの転用数増加のた め(元) 機械・器具、標本：動 作確認の結果減少(元)		
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕							
	動物トータル ケア学科	10,563〔554〕 10,226〔649〕 (10,563〔554〕) (10,226〔649〕)	34〔3〕 30〔3〕 (34〔3〕) (30〔3〕)	23〔16〕 20〔13〕 (23〔16〕) (20〔13〕)	19 18 (19) (18)	2,800 2,934 (2,588) (2,662)	89 94 (89) (94)			
		計	10,563〔554〕 10,226〔649〕 (10,563〔554〕) (10,226〔649〕)	34〔3〕 30〔3〕 (34〔3〕) (30〔3〕)	23〔16〕 20〔13〕 (23〔16〕) (20〔13〕)	19 18 (19) (18)	2,800 2,934 (2,588) (2,662)		89 94 (89) (94)	
			面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		ヤマザキ動物専門学校 と共用	
			247.89㎡		40		16,750冊			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			ヤマザキ動物専門学校 と共用			
		197.82㎡		-						
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	専門職短期大学全体 図書：図書購入費を開 設前年度と開設年度で 分割したため また、寄贈図書が増加 したため購入費総額を 減少(元) 設備：工事費用の減少 (元)	
		教員1人当り研究費等	230千円	230千円	図書購入費	3,401千円 5,140千円 0千円	1,455千円 0千円	0千円		
		共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	85,367千円 86,162千円	25,308千円	0千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,430千円	第2年次 1,280千円	第3年次 1,280千円	第4年次 - 千円	第5年次 - 千円	第6年次 - 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入、資産運用収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	ヤマザキ動物看護大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
動物看護学部	4	180	－	720	－	1.07	－	平成22	－	
動物看護学科	4	180	－	720	学士 (動物看護学)	1.07	－	平成22	東京都八王子市 南大沢4-7-2	
大学全体	4	180	－	720	－	1.07	－	－	－	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<動物トータルケア学科>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	山北 宣久 (77) ＜平成31年4月＞ 神学修士
		生命倫理学
専	教授	藤村 響男 (60) ＜令和2年10月＞ 獣医学博士
		動物病理学 動物薬理学 動物感染症学 臨地実習3 臨地実習5 動物トータルケア総合演習2
兼任	講師	藤村 響男 (60) ＜令和元年10月＞ 獣医学博士
		動物病理学 動物薬理学 動物感染症学
専	教授	本田 三緒子 (63) ＜平成31年4月＞ 修士（危機管理学）
		動物形態機能学 動物形態機能組織学 公衆衛生学 動物リハビリテーション論※ 臨地実習2 臨地実習3 臨地実習4 災害・危機管理論※
専	准教授	山川 伊津子 (59) ＜令和2年4月＞ 修士（社会福祉学）
		動物看護ソーシャルワーク 動物人間関係学 臨地実習4 臨地実習5 臨地実習6 動物トータルケア総合演習1

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	山北 宣久 (78) ＜平成31年4月＞ 神学修士
		生命倫理学
専	教授	藤村 響男 (60) ＜令和2年10月＞ 獣医学博士
		動物病理学 動物薬理学 動物感染症学 臨地実習3 臨地実習5 動物トータルケア総合演習2
兼任	講師	藤村 響男 (60) ＜平成元年10月＞ 獣医学博士
		動物病理学 動物薬理学 動物感染症学
専	教授	本田 三緒子 (63) ＜平成31年4月＞ 修士（危機管理学）
		動物形態機能学 動物形態機能組織学 公衆衛生学 動物リハビリテーション論※ 臨地実習2 臨地実習3 臨地実習4 災害・危機管理論※
専	准教授	山川 伊津子 (60) ＜令和2年4月＞ 修士（社会福祉学）
		動物看護ソーシャルワーク 動物人間関係学 臨地実習4 臨地実習5 臨地実習6 動物トータルケア総合演習1

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	加藤 剛 (44) ＜平成31年4月＞ 文学修士/ The Degree of Master of Science in Education Curriculum, Instruction and Technology in Education(米国)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 動物実習短期留学※
専	助教	宮田 淳嗣 (33) ＜平成31年4月＞ 学士（動物看護学）
		コンパニオンアニマルケア論※ 伴侶動物学※ コンパニオンアニマルケア実習（基 礎） コンパニオンアニマルケア実習（応 用）※ 臨地実習1 臨地実習3 臨地実習5
専	助教	山村 拓也 (31) ＜平成31年4月＞ 修士（医科学）
		動物形態機能学・組織学実習 動物臨床検査学実習 臨地実習3 臨地実習4 臨地実習6 研修・ボランティア活動
実専	講師	山本 央子 (60) ＜令和2年4月＞ 専修学校
		コンパニオンドッグトレーニング論 コンパニオンドッグトレーニング実習 臨地実習4 臨地実習6
実専	講師	井上 留美 (53) ＜平成31年4月＞ 各種学校
		動物臨床看護学（外科）実習 動物リハビリテーション論※ 臨地実習1 臨地実習2 臨地実習3 動物トータルケア総合演習2 研修・ボランティア活動

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	加藤 剛 (45) ＜平成31年4月＞ 文学修士/ The Degree of Master of Science in Education Curriculum, Instruction and Technology in Education(米国)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 動物実習短期留学※
専	助教	宮田 淳嗣 (33) ＜平成31年4月＞ 修士（獣医保健看護学）
		コンパニオンアニマルケア論※ 伴侶動物学※ コンパニオンアニマルケア実習（基 礎） コンパニオンアニマルケア実習（応 用）※ 臨地実習1 臨地実習3 臨地実習5
専	助教	山村 拓也 (32) ＜平成31年4月＞ 修士（医科学）
		動物形態機能学・組織学実習 動物臨床検査学実習 臨地実習3 臨地実習4 臨地実習6 研修・ボランティア活動
実専	講師	山本 央子 (60) ＜令和2年4月＞ 専修学校
		コンパニオンドッグトレーニング論 コンパニオンドッグトレーニング実習 臨地実習4 臨地実習6
実専	講師	井上 留美 (53) ＜平成31年4月＞ 各種学校
		動物臨床看護学（外科）実習 動物リハビリテーション論※ 臨地実習1 臨地実習2 臨地実習3 動物トータルケア総合演習2 研修・ボランティア活動

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	高柳 信子 (44) ＜平成31年4月＞ 博士（獣医学）
		動物看護学概論 動物臨床看護学（基礎・内科） 動物臨床看護学（基礎・内科）実習 動物臨床栄養学 臨地実習3 臨地実習5
実(研)	教授 (学科長)	花田 道子 (69) ＜平成31年4月＞ 博士（獣医学）
		動物看護学概論 動物臨床看護学（基礎・内科） 動物臨床看護学（基礎・内科）実習 動物臨床栄養学 臨地実習3 臨地実習5
実(研)	講師	荒木 幸子 (49) ＜平成31年4月＞ 学士（商学）/ Associate in Applied Science(米国)
		キャリアマネジメント 動物トータルライフ演習※ 臨地実習2 臨地実習4 臨地実習5 動物実習短期留学※ 情報危機管理論※
実(研)	講師	藤原 恵利子 (39) ＜平成31年4月＞ 修士（医科学）
		動物臨床検査学 動物臨床検査学実習 臨地実習1 臨地実習4 臨地実習6 動物トータルケア総合演習1
実み	教授	谷川 力 (61) ＜令和2年4月＞ 博士（獣医学）
		動物生理・繁殖学※ 環境生物学 臨地実習6

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	高柳 信子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士（獣医学）
		動物看護学概論 動物臨床看護学（基礎・内科） 動物臨床看護学（基礎・内科）実習 動物臨床栄養学 臨地実習3 臨地実習5
実(研)	教授 (学科長)	花田 道子 (69) ＜平成31年4月＞ 博士（獣医学）
		動物看護学概論 動物臨床看護学（基礎・内科） 動物臨床看護学（基礎・内科）実習 動物臨床栄養学 臨地実習3 臨地実習5
実(研)	講師	荒木 幸子 (49) ＜平成31年4月＞ 学士（商学）/ Associate in Applied Science(米国)
		キャリアマネジメント 動物トータルライフ演習※ 臨地実習2 臨地実習4 臨地実習5 動物実習短期留学※ 情報危機管理論※
実(研)	講師	藤原 恵利子 (39) ＜平成31年4月＞ 修士（医科学）
		動物臨床検査学 動物臨床検査学実習 臨地実習1 臨地実習4 臨地実習6 動物トータルケア総合演習1
実み	教授	谷川 力 (61) ＜令和2年4月＞ 博士（獣医学）
		動物生理・繁殖学※ 環境生物学 臨地実習6

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	谷川 力 (61) ＜平成31年4月＞ 博士（獣医学）
		動物生理・繁殖学※
兼任	講師	近藤 美保子 (52) ＜平成31年4月＞ 準学士
		コンピューターリテラシー（情報処理）Ⅰ コンピューターリテラシー（情報処理）Ⅱ 情報危機管理論※
兼任	講師	藤巻 裕子 (64) ＜平成31年4月＞ 法学士
		コミュニケーション論
兼任	講師	高野 八重子 (73) ＜平成31年4月＞ 高等学校卒
		コンパニオンアニマルケア論※
兼任	講師	鈴木 友子 (46) ＜平成31年4月＞ 学士（獣医学）
		動物臨床看護学（基礎・内科）実習 動物口腔ケア論 動物口腔ケア実習
兼任	講師	濱部 有羽子 (67) ＜令和2年4月＞ 獣医学士
		訪問動物看護学
兼任	講師	天野 卓 (75) ＜令和2年10月＞ 農学博士
		野生動物学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	谷川 力 (61) ＜平成31年4月＞ 博士（獣医学）
		動物生理・繁殖学※
兼任	講師	近藤 美保子 (52) ＜平成31年4月＞ 準学士
		コンピューターリテラシー（情報処理）Ⅰ コンピューターリテラシー（情報処理）Ⅱ 情報危機管理論※
兼任	講師	藤巻 裕子 (64) ＜平成31年4月＞ 法学士
		コミュニケーション論
兼任	講師	高野 八重子 (73) ＜平成31年4月＞ 高等学校卒
		コンパニオンアニマルケア論※
兼任	講師	鈴木 友子 (47) ＜平成31年4月＞ 学士（獣医学）
		動物臨床看護学（基礎・内科）実習 動物口腔ケア論 動物口腔ケア実習
兼任	講師	濱部 有羽子 (67) ＜令和2年4月＞ 獣医学士
		訪問動物看護学
兼任	講師	天野 卓 (76) ＜令和2年10月＞ 農学博士
		野生動物学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	菅野 多恵 (52) ＜令和3年10月＞ Applied Animal Behaviour and Animal Welfare(英国)
		動物愛護・福祉と関連法規
兼任	講師	杉山(佐藤) 尚子 (60) ＜令和元年10月＞ 文学修士
		動物行動学 消費者行動分析学
兼任	講師	早田 由貴子 (68) ＜平成31年4月＞ 獣医学士
		伴侶動物学※ コンパニオンアニマルケア実習（応用）※
兼任	講師	小嶋 篤史 (45) ＜平成31年4月＞ 獣医学士
		伴侶動物学※
兼任	講師	古川 力 (64) ＜令和2年4月＞ 農学博士
		動物飼育管理論※ 産業・実験動物学
兼任	講師	堀井 隆行 (39) ＜令和2年4月＞ 修士（動物応用科学）
		動物飼育管理論※
兼任	講師	鈴木 友紀 (56) ＜令和2年4月＞ 芸術学士
		動物トータルライフ環境論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	菅野 多恵 (52) ＜令和3年10月＞ Applied Animal Behaviour and Animal Welfare(英国)
		動物愛護・福祉と関連法規
兼任	講師	杉山(佐藤) 尚子 (61) ＜令和元年10月＞ 文学修士
		動物行動学 消費者行動分析学
兼任	講師	早田 由貴子 (69) ＜平成31年4月＞ 獣医学士
		伴侶動物学※ コンパニオンアニマルケア実習（応用）※
兼任	講師	小嶋 篤史 (45) ＜平成31年4月＞ 獣医学士
		伴侶動物学※
兼任	講師	古川 力 (65) ＜令和2年4月＞ 農学博士
		動物飼育管理論※ 産業・実験動物学
兼任	講師	堀井 隆行 (39) ＜令和2年4月＞ 修士（動物応用科学）
		動物飼育管理論※
兼任	講師	鈴木 友紀 (57) ＜令和2年4月＞ 芸術学士
		動物トータルライフ環境論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	奥山 健二 (75) ＜令和2年4月＞ 学術博士
		動物トータルライフ環境論※
兼任	講師	宮下 めぐみ (45) ＜令和2年4月＞ 学士（獣医学）
		動物トータルライフ環境論※
兼任	講師	長岡 恵 (69) ＜令和3年4月＞ 専修学校卒
		動物トータルライフ演習※
兼任	講師	五十嵐 靖博 (52) ＜令和3年4月＞ 修士（文学）
		ジェロントロジー
兼任	講師	大西 正行 (69) ＜令和3年10月＞ 経済学士
		少子高齢社会と人口問題
兼任	講師	曇 昭吉 (73) ＜令和3年4月＞ 経済学修士
		産業論
兼任	講師	竹田 昌弘 (58) ＜令和3年10月＞ 経営学修士
		I T 社会論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	奥山 健二 (75) ＜令和2年4月＞ 学術博士
		動物トータルライフ環境論※
兼任	講師	宮下 めぐみ (46) ＜令和2年4月＞ 学士（獣医学）
		動物トータルライフ環境論※
兼任	講師	長岡 恵 (70) ＜令和3年4月＞ 専修学校卒
		動物トータルライフ演習※
兼任	講師	五十嵐 靖博 (52) ＜令和3年4月＞ 修士（文学）
		ジェロントロジー
兼任	講師	大西 正行 (69) ＜令和3年10月＞ 経済学士
		少子高齢社会と人口問題
兼任	講師	曇 昭吉 (73) ＜令和3年4月＞ 経済学修士
		産業論
兼任	講師	竹田 昌弘 (58) ＜令和3年10月＞ 経営学修士
		I T 社会論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	石渡 浩 (45) ＜令和3年10月＞ 修士（経済学）
		起業論
兼任	講師	福山 貴昭 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（危機管理学）
		災害・危機管理論※
兼任	講師	斎藤 康介 (67) ＜令和2年10月＞ 短期大学士
		生活とアート
兼任	講師	加藤 理絵 (46) ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
		心理学 高齢者心理
兼任	講師	新島 典子 (51) ＜令和元年10月＞ 修士（社会学）
		社会学 死生学
兼任	講師	鎌田 壽彦 (73) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		動物生理・繁殖学※
兼任	講師	庄司 拓也 (49) ＜令和2年4月＞ 修士（史学）
		社会福祉学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	石渡 浩 (46) ＜令和3年10月＞ 修士（経済学）
		起業論
兼任	講師	福山 貴昭 (45) ＜令和3年4月＞ 修士（危機管理学）
		災害・危機管理論※
兼任	講師	斎藤 康介 (67) ＜令和2年10月＞ 短期大学士
		生活とアート
兼任	講師	加藤 理絵 (47) ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
		心理学 高齢者心理
兼任	講師	新島 典子 (51) ＜令和元年10月＞ 修士（社会学）
		社会学 死生学
兼任	講師	鎌田 壽彦 (74) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		動物生理・繁殖学※
兼任	講師	庄司 拓也 (49) ＜令和2年4月＞ 修士（史学）
		社会福祉学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	今井 達男 (68) ＜令和3年10月＞ 薬学士
		医療安全

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	今井 達男 (68) ＜令和3年10月＞ 薬学士
		医療安全

- （注） ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 研究業績を有する実 務家教員数
13 名	4 名	6 名	3 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【専門職大学等】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
5	1	6	2	14	3	0	5	2	10
(3)	(0)	(5)	(2)	(10)					
専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実（研）)			専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実（研）)		
7	3	4			5	2	3		
(5)	(2)	(3)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
5	1	6	2	14	5	1	6	2	14
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実（研）)			専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実（研）)		
7	3	4			7	3	4		
[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・ **「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
- ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
- なお、みなし専任教員（実み）がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	3 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{14}{14} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{10} = \boxed{20} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員** について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年11月)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を育成するという専門職短期大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項 研究室について、平成31年度就任の専任教員9名分の研究室を平成30年度末（開設時）までに配置した。平成31年4月19日に新図書館が竣工、4月末までに2号館1階に研究用実験室1、同3階に研究用実験室2を配置し研究環境を整備した。なお、「機械・器具」及び「標本」の点数は減少したが、補充を計画しているため、教育研究活動には影響ないと判断した。 学生の確保について、定員が未充足となったのは、専門職短期大学設置認可日まで学生募集活動が行えず、新規受験生の確保が難しかったためである。令和元年度の学生募集活動は、平成30年度よりも早い時期から設置計画に示した定員充足に向けての取り組みを行っている。また、入学者選抜は、4つのアドミッション・ポリシー及び2つの建学の精神並びに教育理念を踏まえて実施している。 社会人選抜合格者に入学までに課題を課さなかったのは、平成31年4月3日（水）の追加社会人入学試験に合格後、入学式まで2日間しかなく、課題を課す時間が十分に取れなかったためである。そのため、社会人選抜合格者については、授業開始日までに動物看護担当の専任教員が授業の受講に支障がないことを確認した。（令和元（2019）年度）	履行中 研究室について、令和元年度末までに、令和2年度就任の専任教員4名に加え、将来の専任教員の増加に鑑み、計6名分の研究室を配置し、合計15名分の研究室を用意する。これを受けて、全専任教員の研究室の整備が完了する。「機械・器具」は令和元年夏季休暇期間に補充する。「標本」は授業に支障がないよう対応する。今後もFD・SD研修等により、教育研究活動の水準をなお一層向上させるよう努める。 令和2年度以降の学生確保の方策は、早い時期からオープンキャンパスを実施するほか、高等学校訪問や高等学校教員対象説明会を開催するなど積極的な学生募集活動を行う。また、入学者選抜は、4つのアドミッション・ポリシー及び2つの建学の精神並びに教育理念を踏まえて実施していく。 社会人入学者に対し、3年間の動物看護実習に継続して参加できるかを確認するために、個々の状況に応じて丁寧にサポートを行い、必要に応じて個別に課題を課すこととする。
認 可 時 (平成30年11月)	2. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項 現在、学科開設初年次であるため、教員組織編成の適正化は履行できていない。今後、完成年度以降に向けて適正な人事計画をたて実行する。（令和元（2019）年度）	履行中 定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、学生の教育に支障をきたさないよう、教授会で協議の上、若手教員の採用も踏まえ、段階的に後任として適切な人員を補充する。

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年11月)	3. 臨地実務実習において、実習評価表による実習評価を適切に行い、教育の質を確保すること。また、臨地実務実習の実習指導者の質を確保するために行うこととしている大学教員と指導者とのミーティングについては、学生の教育効果が向上するよう充実した内容にするとともに、事後の検証を毎年度行い内容の改善を図り、実習指導者の質の確保に取り組むこと。	遵守事項 臨地実務実習委員会を4月に開催し、設置認可申請書類における①実習先の確保の状況、②実習水準の確保の方策、③実習先との連携体制及び今後のスケジュール等について検討した。(令和元(2019)年度)	履行中 夏季休暇中と春季休暇中に【臨地実習1】が渋谷キャンパス1号館に併設されているペットサロン(動物病院美容部門を含む)で、【臨地実習2】が動物病院(アニマルメディカルセンター)で各々3日間(1日7時間)実施される。そのため、年1回教員と臨地実務実習先指導者とのミーティングを実施し、臨地実務実習先が重要視している臨地実務実習を通して学んでほしい事項、問題点や課題等について確認する。さらに、臨地実務実習指導者及び教職員間の情報共有を図り、学生への意識付の工夫、課題の確認・目標の設定の再確認、更なる臨地実務実習の向上を図る。
認 可 時 (平成30年11月)	4. 展開科目について、専任教員の配置の充実を検討しつつ、人材育成の目的とする職業分野において創造的な役割を果たすために必要な能力を育成するという展開科目の目的を踏まえ、更なる充実に努めること。	遵守事項 展開科目について、専任教員の配置の充実及び展開科目の目的を踏まえたカリキュラム編成等の更なる充実については、今後の検討課題とする。(令和元(2019)年度)	履行中 完成年度までの設置認可申請における展開科目の担当教員は、専任教員2名、兼任教員12名で計画どおり開講する予定である。 なお、教育課程連携協議会において関連する他分野に関わる構成員からの意見・情報等を反映させ、専任教員の配置等も踏まえ、カリキュラムの編成等の見直しを検討する。
認 可 時 (平成30年11月)	5. 「コンピューターリテラシー(情報処理)Ⅱ」において学ぶこととしている人工知能等については技術の進展が早いいため、最新の技術の内容を学ぶことができるように、ファカルティ・ディベロップメントの充実を含め授業内容を充実させていくことが望ましい。	助言事項 FD・SD委員会において、「コンピューターリテラシー(情報処理)Ⅱ」で学ぶこととしている人工知能等についての研修等を検討していく。(令和元(2019)年度)	履行中 人工知能等については技術の進展が早いいため、今後、その分野の詳しい専門家を招聘し、FD・SD研修の充実を図るよう努める。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<動物トータルケア学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①新図書館竣工 平成31年4月20日竣工予定	予定どおり作業が進んだため、平成31年4月19日に竣工式を行った。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

本学では、教員の資質の維持向上の方策のために、FD・SD委員会を設置した。以下のとおり、「ヤマザキ動物看護専門職短期大学FD・SD委員会規程」（令和元年5月23日（木）理事会承認）をもとに、説明する。

a 委員会の設置状況

（目的）

第1条 この規程は、ヤマザキ動物看護専門職短期大学（以下「本学」という。）学則第4条の規定に基づき、全教職員が教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を定期的に設け、併せて両者の連携体制の確保を図るため、FD（Faculty Development）・SD（Staff Development）委員会（以下「FD・SD委員会」という。）の運営に関する必要な事項を定めることを目的とする。

2 必要に応じて小委員会を置くことができる。

（構成）

第2条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 学科長
- (2) 教務部長
- (3) 事務局長
- (4) 法人本部総務部長
- (5) 専任教職員の中から学長が指名した者

（任期）

第3条 前条第1項第1号及至第4号の委員の任期は、その在任期間中とする。

2 前条第1項第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 委員に欠員が生じた場合、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長等）

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は学科長とする。

3 副委員長は、委員の互選により決する。

4 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

5 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年度におけるFD・SD委員会は5月以降に第1回目を開催予定である。その後、定期的実施する。

c 委員会の審議事項等

（審議事項）

第7条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育に関する情報及び資料の収集、分析並びに改善策の立案に関する事項

- (2) カリキュラムの点検、評価及び改善策の立案に関する事項
- (3) 授業方法の改善に係る研修に関する事項
- (4) ファカルティディベロップメントに対する支援に関する事項
- (5) 事務職員の職責向上の遂行及び質的向上の推進に関する事項
- (6) 教職員の研修等に関する事項
- (7) 教職員の連携及び教育環境の整備に関する事項
- (8) その他学長が諮問した事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 教育研究にかかわる研修
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
- ・ カリキュラムの改善
- ・ シラバスに関連する対応
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ 授業評価
- ・ FD・SD関連の情報収集と周知
- ・ 教職員の研究会、研修会への派遣
- ・ FD・SDに関する研修

b 実施方法

- ・ 教育研究にかかわる研修
担当授業を開始する前に、各教員が、大学・学科の教育上の目的や養成する人材像について共通の認識を持つことができるようにするため、委員長は、教員に対して研修の機会を設ける。
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
各授業科目の教育目標や位置付け、他の授業科目との関連(授業内容及び授業範囲)について、十分に討議・連携を踏まえ、各教員が担当する授業の内容・方法等を決定する。
- ・ カリキュラムの改善
教育内容の向上を図るために、継続的にカリキュラムの改善を行う。すなわち、体系的に学修できる必修科目の検討など、カリキュラムの改善を図る。その際には、学生による授業評価と教員による自己評価を参考に、動物看護、特に訪問看護や在宅ケアの教育研究に考慮したカリキュラムの改善を目指す。
- ・ シラバスに関連する対応
シラバスの内容の充実・改善を図るために、FD・SD委員会、教務委員会等において、担当科目の内容、教育目標、成績評価基準、教科書や参考書の指定等のシラバスの記載項目並びに記載方法等を検討する。
- ・ 教員相互の授業参観
教員相互で授業の参観を実施し、各教員の授業内容及び方法の改善を図る。
- ・ 授業評価
学期の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを行い、授業の改善資料とする。このアンケート結果は自己点検・評価の際にも活用する。
- ・ FD・SD関連の情報収集と周知
他大学並びに諸団体におけるFD・SD関連の成果・資料等の情報を収集し、これらを教職員に周知する。
- ・ 教職員の研究会、研修会への派遣
他大学並びに諸団体が開催するFD・SD関連の研究会、研修会等に積極的に教職員を派遣する。
- ・ FD・SDに関する研修
全教職員がFD・SD活動の必要性和重要性を共通に認識するために、学内において、FD・SDに関する講習会等を定期的に開催する。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・ 現時点では、まだ実施されていないが、積極的な教職員参加が図られるよう計画を策定中である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 具体的には、実施されていないが、今後、授業評価アンケートを実施し、結果を教員にフィードバックすることにより、授業改善への取り組みに反映させる。

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

「ヤマザキ動物看護専門職短期大学教育課程連携協議会規程」（令和元年5月23日（木）理事会承認）をもとに、以下のとおり説明する。

a 協議会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

（趣旨）

第1条 この規程は、ヤマザキ動物看護専門職短期大学学則第5条第2項に定めるヤマザキ動物看護専門職短期大学教育課程連携協議会（以下「協議会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

（協議会の構成員）

第2条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1) ヤマザキ動物看護専門職短期大学長（以下「学長」という。）が指名するヤマザキ動物看護専門職短期大学（以下「本学」という。）の教員その他の職員

(2) 動物看護師、グルーミングサロン、ペットショップ又はその他の動物関連産業に係る職業に就いている者又はこれらの職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動する関係者であって当該職業の実務に関し豊富な経験を有する者

(3) 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者

(4) 臨地実習その他の授業科目の開設又は授業の実施において本学と協力する事業者

(5) 本学の教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認める者

b 協議会の開催状況（回数や開催日など）

第6条 協議会の開催は、過半数の構成員の出席を必要とする。

2 議長が必要と認める場合、構成員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

c 協議会の審議事項等

第5条 協議会は、次の各号に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

(2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施、その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

d その他

特になし

② 審議状況

a 審議した内容

11月中旬に開催予定の令和元年度第1回教育課程連携協議会において、臨地実務実習等の教育課程について審議することを予定している。また、第2回教育課程連携協議会も、同様に臨地実務実習等の教育課程について審議することを予定している。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

今後、教育課程連携協議会において審議された内容を踏まえ、教務委員会において臨地実務実習を含む教育課程の見直しを検討する予定である。なお、専門職短期大学の特徴となる展開科目については、教育課程連携協議会の意見を参考に完成年度以降に科目の見直し及び教員の配置等を検討する。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

今後、教育課程については、教育課程連携協議会の意見を勘案し、聴取した意見を教務委員会で検討の上、教授会の意見を聴いて、学長が教育課程に反映する予定である。さらに、その結果を教育課程連携協議会に報告するというPDCAのサイクルを構築する予定である。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学則第2条に規定する、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究、組織運営並びに施設設備の状況について自己点検・評価を行い、その結果を公表する。学長を中心とする自己点検・評価委員会によって、①建学の精神・基本理念及び使命・目的 ②学修と教授 ③経営・管理と財務等を自己点検・評価し、PDCAサイクルにより翌年度以降の大学改革への取組に反映させる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和2年6月 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関に配布予定
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和2年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和7年度に認証評価機関（財団法人 日本高等教育評価機構）の認証評価を受けるべく、学内で検討中である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 検討中 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

○「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」で記載した計画を記入ください。

○認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。

○「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。

その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目) 1 一般入学試験 必要な基礎学力を判定するため独自の学力検査の結果及び出願書類の内容を総合的に判定して行う。 定員枠は10名とし、理科(生物基礎または化学基礎から選択)及び英語(リスニング除く)の2科目を試験科目とする。 2 AO入学試験 専門職短期大学の教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため、本学独自に実施する面接試験の成績、資格・検定試験等の成績、各種大会等の活動や顕彰の記録その他の資料を活用するとともに、高等学校の教科の評定平均値、特に選択科目で履修している生物基礎・化学基礎の評定平均値を重要視して合否判定に用いて入学者選抜を実施する。 定員枠は50名とし、アドミッションポリシーに基づき入学者を選抜するため、自己推薦文(各種資格、各種検定試験の成績、弁論大会やボランティア活動、在学中の学校内での活動、動物飼育体験の実績等)、小論文、面接、評定平均値の内容を総合的に判定する。 3 指定校推薦 本学が指定する高等学校の現役生で、高等学校での調査書の評定平均値が3.2以上であり、本学への入学を専願とし、試験合格後は必ず入学することを確約できる者であり、高等学校長が責任をもって推薦できる者を対象とする。 定員枠は15名とし、小論文、面接、出願書類を総合的に判定する。 4 公募推薦 高等学校の現役生及び高等学校卒業後1年以内の者で、高等学校での調査書の評定平均値が3.0以上であり、本学への入学を専願とし、試験合格後は必ず入学することを確約できる者であり、高等学校長の推薦を受けた者を対象とする。 定員枠は5名とし、小論文、面接、出願書類を総合的に判定する。 また、入学前教育としてAO入試及び推薦入試の合格者を対象に、思考力や表現力を問うために、最近のトピックスの中から興味を持ったニュースを選び、感想文を提出させる。提出された感想文は、教員による添削の上、提出者にフィードバックする。 ・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目) 何らかの動物関係の資格保有者や動物病院をはじめとする動物関連企業で勤務した経験がある者で、今後学び直しを希望し、動物看護師を目指す者。または一般選抜と同様の大学入学資格を有し、入学年度の4月1日に満22歳以上である者を対象とする。 定員枠は若干名とし、小論文、面接、出願書類を総合的に判定する。 なお、入学手続者に対し、動物看護実習に係る学力と関連する理数系科目について入学までに取り組むべき課題を課すこととする。	※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。 認可(設置)時の計画どおりに履行 実施方法は認可(設置)時の計画どおり行った。実施回数、受験者、合格者は別表1のとおりである。 認可(設置)時の計画どおりに履行 実施方法は認可(設置)時の計画どおり行った。実施回数、受験者、合格者は別表1のとおりである。 認可(設置)時の計画どおりに履行 実施方法は認可(設置)時の計画どおり行った。実施回数、受験者、合格者は別表1のとおりである。 認可(設置)時の計画どおりに履行 実施方法は認可(設置)時の計画どおり行った。実施回数、受験者、合格者は別表1のとおりである。 入学までに時間的な猶予があるAO入学試験A日程・推薦入学試験Ⅰ期(12/15実施)、AO入学試験B日程・推薦入学試験Ⅱ期(1/14実施)、AO入学試験C日程(2/3実施)の入学許可者に最近の動物関連のトピックスの中から興味を持ったニュースを選び、自身で考えたこと・感じたことを800字以内にまとめる入学前課題を課した。提出された課題は専任教員が閲覧し、コメントを付けたうえで、学生へ返却した。 社会人選抜の実施方法は設置認可申請のとおりに行った。実施回数、受験者、合格者は別表1のとおりである。 社会人選抜における入学手続者への課題については、合格者2名が4月以降の追加入学試験を受験したことから、入学までに時間的な猶予がなく、課題を課すことができなかった。そのため、4月8日(月)の授業開始までの間に、動物看護担当の専任教員が併設のコンパニオン・アニマル・センター(アニマル・メディカル・センター及びシブヤ・ドッグ・ビューティー)で動物看護実習に関する学力と能力を確認した。次年度以降は、さまざまなバックグラウンドから入学する社会人学生に対し、3年間の動物看護実習に継続して参加できるかを確認するために、課題を課すこととしている。社会人入学者は、入学までの社会経験及び学歴が多様性に富むことから、個々の状況に応じて丁寧にサポートを行い、必要に応じて個別に課題を課すこととする。

② 臨地実務実習

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
・ 実習先の確保の状況 本学園は、日本ではじめて動物看護という領域の職業を確立し、以来50年にわたり動物関連産業及び多数の動物関連団体と深い絆を結んできた。 このため、動物病院及び動物関連企業と長年にわたる交流があり、その結果、臨地実務実習先として全国325施設の承諾を得ている。なお、1都6県からの進学者が見込まれることや教員の巡回指導及び学生の移動方法に鑑み、原則として1・2年次は1都6県を中心に臨地実務実習に参加することとする。なお、1都6県の臨地実務実習先は193件であり、実習先は十分に確保されている。 ・ 実習水準の確保の方策 臨地実務実習のため「臨地実務実習委員会」を設置し、実習施設を選定して実習施設側と対応し事前事後教育及び教員の訪問計画を立案・実行する。 実習に際しては、専任教員による事前教育、事後教育を行う他、専任教員の分担による訪問を実施する。実習施設において実習指導担当者を選任していただき、実習指導者と事前の打ち合わせを行う。実習後の学生からの実習ノートによる報告、実習先の評価書に基づき、実習担当の専任教員により成績を評価する。 臨地実務実習施設を選定する基準について、以下のとおり動物病院と動物関連企業の業種ごとに説明する。 ＜動物病院＞ ・本学の養成する人材像「動物愛護の精神に則り、動物病院において実務家として社会に貢献する人材」を育成するため、臨地実務実習先動物病院もこれに則した動物病院であり、中規模動物病院、小規模動物病院、高度医療・二次診療を行う動物病院、専門科診療を行う動物病院、住診を実施している動物病院である。 ・本学園の臨地実務実習病院若しくは卒業生が就職している動物病院で、臨床経験5年以上の獣医師、動物看護の経験が3年以上の動物看護師がいる動物病院である。 ・学生が実習期間中に自宅から通える範囲（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、栃木県、群馬県、茨城県の1都6県）である。 なお、動物病院の施設設備基準は明確に規定されていないため、本学では動物病院の基準を次のとおり設定した。 ・小規模動物病院は、施設として待合室（受付）、診察室、処置室を備え、設備として滅菌（オートクレーブ）、薬品管理等を備え、診察に必要な器具を有する。 ・中規模動物病院は、施設として待合室（受付）、診察室、処置室、手術室、入院室、X線検査室を備え、設備として検査機器、救急（人工蘇生機器）、滅菌（オートクレーブ）薬品管理等を備え、診察に必要な器具を有する。 ＜動物関連企業等＞ ・本学園の卒業生が就職している企業・店舗を含み、経営が安定している動物関連企業等である。 ・3年以上の実務経験を持つ従業員が実習指導にあたる企業・店舗等である。 ・学生が実習期間中に自宅から通える範囲（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、栃木県、群馬県、茨城県の1都6県）である。 なお、業種ごとに以下のとおり基準を設けた。 ・ペットサロン（動物病院美容部門を含む）、ペットショップ ペットのグルーミング等の知識や飼育・健康管理等を学ぶことができ、3年以上の実務経験者による指導が受けられ、継続的に営業している店舗等 ・ペットホテル、訓練施設、老犬ホーム ペットホテル・訓練施設・老犬ホームは、ペットを宿泊で預かる際の動物の飼育・健康管理等が学ぶことができ、3年以上の実務経験者による指導が受けられ、3年以上継続的に営業している店舗等 ・ペット同伴宿泊施設 ペット同伴宿泊施設は、宿泊客が同伴してきたペットへの対応等を学ぶことができ、3年以上の実務経験者による指導が受けられ、継続的に営業しているホテル等 ・その他の動物関連企業 その他のペット関連企業においては、ペットフード、ペット用品ほかのペット関連商品の販売等を学ぶことができ、3年以上の実務経験者による指導が受けられ、3年以上継続的に営業している店舗等 ・動物関連団体 動物に関する公益団体等で公益的な活動を学ぶことができ、3年以上の実務経験者による指導が受けられ、継続的に営業している事務所等	※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。 令和元年度はまず臨地実務実習委員会を以下とおり開催し、左記にある計画内容を中心に審議検討した。 ・委員会の開催及び審議事項等 日時：4月23日（火）15時15分～16時 出席者数：16人 学科長を委員長とし、教員から選出される委員と担当事務職員の16名で開催。（委員の過半数以上の出席をもって成立とし、開催要件を満たしている。） 審議事項：①実習先の確保の状況、②実習水準の確保の方策、③実習先との連携体制及び今後のスケジュール等について検討した。 なお、令和元年度は夏季休暇期間と春季休暇期間に【臨地実習1】が渋谷キャンパス1号館に併設されているコンパニオン・アニマル・センター（シブヤ・ドッグ・ビューティー）で、【臨地実習2】がコンパニオン・アニマル・センター（アニマル・メディカル・センター）で各々3日間（1日7時間）実施される。そのため、年1回教員と臨地実務実習先指導者とのミーティングを実施し、臨地実務実習先が重要視している臨地実務実習を通して学んでほしい事項、問題点や課題等について確認する。さらに、臨地実務実習指導者及び教職員間の情報共有を図り、学生への意識付の工夫、課題の確認・目標の設定の再確認、更なる臨地実務実習の向上を図る。 今後は平成31（2019）年1月文部科学省発行の専門職大学等の臨地実務実習の手引に沿って、実施する。

・ 実習先との連携体制 臨地実務実習施設の実習指導者と本学の実習担当教員が適時に連絡を取り、実習全般の調整を行う。実習担当教員は、実習中の巡回指導時において本学と実習施設と情報交換し、十分な連携を図る体制を構築する。 実習施設への巡回は、実習期間の前後及び期間中に原則として1回実施するものとし、実施施設からの要望に応じても訪問する。巡回指導時には、実習目標の達成や課題について本学教員、学生、実習指導者が相互に認識し合い、連携した指導体制とする。 巡回指導時には、学生からの問題点や学習の達成状況等について、実習が円滑に展開するために指導・支援し、学生の抱える悩みについて相談を受け、指導・助言して実習の充実を図る。 実習担当教員は、臨地実務実習委員会と一体となって、臨地実務実習の計画・実施・評価、臨地実務実習指導体制の構築、実習施設の実習指導者との実習内容と実習方法の連絡・調整を行う。実習施設の実習指導者は、業務について経験と知識・技術を持ち、本学の提示する実習計画に基づき実習環境を整備し、スタッフとの調整、実習の評価等を行い、本学実習担当教員との連絡にあたる。 ・ 連携実務演習等 記載なし。	
---	--

③ その他

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置 展開科目の1クラス80人として開講する科目は、著名な非常勤講師を招聘しているため、教育効果を配慮して授業終了後にメール等による質疑応答等を行う。更に、各学期授業終了後の授業評価を次年度の授業の改善に繋げ、教育効果の質を向上させるよう配慮する。	※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。 認可（設置）時の計画に変更なし 展開科目は2年次前期から3年次後期に開講予定であるが、認可（設置）時の計画通り実施予定である。

ヤマザキ動物看護専門職短期大学 平成31（令和1）年度入学試験実施状況

	一般入学試験	A0入学試験	指定校推薦	公募推薦	社会人入学試験	合計
設置回数	2	9	2	2	6	21
実施回数	2	7	2	1	1	13
受験者	15	31	12	4	2	64
合格者	15	31	12	4	2	64